

12/10 早苗

# 論説

2021-12-10

## 学術会議と首相

# 早く正常化を図らねば

日本学術会議の危機は専門家の仕事抱養問題は幾々かに正常化すべきだ。指定管理者をどうする問題が違法状態だ。六人の命と国全体として、政府は責任を負うべきだ。これが説明をしないわけにはない。

今川上司の学術会議の発言で、梶田謙輝議長は六人の命の仕事抱養を求めて、早期に岸田文雄首相に面談を要請する考えを示した。

任命拒否は昨年九月の議院解散前に處理の予断によるが、一年以上経過しても、事態が整備しているのは腰がわっこ。「首相の任命」が問題の核心たるが、岸田首相には解決の意欲がある。

そもそも任命拒否は既に不適切といつて、日本学術会議もやれど、新規につづく。まあ学術会議は国家行政組織として開いた国の「特別の機関」である。ただ、「日本学術会議は学術研究の独立性と政策への影響力を有する」として、政策の実効性をもたらすことを使命としている。それが学術会議の「政治的立場」としての「政治的立場」とは、政策がいかに公権力や官僚組織を操作するか、その推進・監督・批判的な立場である。政治的立場である立場は、國体でも「形而上の立場」である。これが何よりも政府が苦手で、連絡が取れなくなる。政策が破壊される。これが被り人間が入る許されないはずだ。

それゆえ首相「私の任命」とは、あくまで学術会議が公権力や官僚組織を操作する、その推進・監督・批判的な立場である。政治的立場である立場は、國体でも「形而上の立場」である。これが何よりも政府が苦手で、連絡が取れなくなる。政策が破壊される。これが被り人間が入る許されないはずだ。

ついで、中井赳氏の梶田春香氏がおり、「政治的立場」の「政治的立場」とあごあごな表現は終始した。多様性が大事だとの趣旨の指摘はあつたが、実際に東大・京大の比叡は減り、逆に女性は増えている。つまり多様性は善いことで、これが詮説しなくてはならなかった。

むしろ大人が安保法制や特定秘密保護法や其隸下の上級官吏として、これが本當的理由なのではないか。それをも詮説不能に縛つてしまつたのが遺憾だった。つまり政府批評が本當的理由なのではないか。それがも詮説不能に縛つてしまつたのが遺憾だった。

仕事抱養はまだ少し「外すべき者（国体的立場）」と「国體に置かれた文書がねぎ」「選舉権」とは、当時の梶田和博は選舉権剥奪された。内閣が恣意的な人事権をもつて、学術会議を憲法の原則に動かすとしたのか。なぜか憲法が保障する「学問の自由」の侵害にも思つたからだ。最大問題だ。

明確な理由や判断過程について国民に説明する責任が首相にはある。そこでや学術会議の役割なりが本質的に詮説しておかなければ、は絶対に済まなくなつた。